推 薦 図 書

学　科：　文学部　英語学科	氏　名：　井石 哲也
書　名：　一九八四年	
著者・訳者：　ジョージ・オーウェル著　高橋和久訳	
出　版　：　早川書房　2009	

〈推　薦　文〉

1949年に出版された、イギリスの作家、オーウェルの長編小説です。つまりこの物語は、1984年という未来を想定したSFフィクションというわけです。この小説で描かれている（未来の）イギリスは、文明が高度に進化した社会でありながら、その市民生活が「テレスコープ」と呼ばれる高精度カメラで個人生活が監視される国家です。産児制限があり、特殊な言語「ニュースピーク」の使用だけが認められ、国家思想に反する言動をおこなう人間は、「秘密警察」によって逮捕されるという恐怖世界。正体不明の闇の管理者「ビッグ・ブラザー」の存在におびやかされて生活する人々に「自由」はありません。

主人公ウィンストン・スミスは、国家機関で働く身でありながら、人間的な生き方を志向するがゆえに「反逆罪」を重ね、逮捕、監禁、拷問の末に廃人にされていきます。

21世紀の現代にも厳然と存在する管理社会の恐怖を予見したこの小説は、私たちに驚きとショックを与えるとともに、国家とそこに生活する人間に対して、幸福のあり方や生きる方向性について警鐘を鳴らしています。この作品は、戦争に関連する法律の議論や「マイナンバー制度」など、生活を取り巻く環境が、法律によって「管理」されていく現代社会に生きる人すべてにとって必読の1冊と言えるかもしれません。